

プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤 ビビフルフロアブル	取扱メーカー： クミカ 原体メーカー： クミカ
成分： プロヘキサジオンカルシウム塩 〔ジベレリン生合成阻害剤〕……………1.0%	性状： 類白色水和性粘稠懸濁液体 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 茎葉処理タイプの生育調整剤で、主な作用はジベレリン生合成阻害である。
- 土壌中では速やかに分解するため、後作物への影響はない。
- 水稻の茎葉に散布することにより、上位節間の伸長を抑制して、倒伏軽減効果を示す。
- 茎葉から直接吸収されるため、速効的に節間の伸長抑制効果が発現する。水稻の生育を見ながら倒伏の予測が可能な出穂10日～2日前（走り穂の状態）に散布できる。
- 茎葉処理タイプのため、土壌条件や水管理などの影響を受けることがなく、安定した上位節間の伸長抑制効果を示す。
- 倒伏の軽減を必要とする所にもみ処理する部分散布（スポット処理）も可能で、省力的でかつ経済的である。
- いちごの茎葉に散布することにより、葉柄の過伸長を抑え、徒長を抑える。
- キャベツの茎葉に散布することにより、苗の徒長を抑える。
- ストックの茎葉に散布することにより花芽分化を早め、開花を促進させる。
- きくの発蕾期及び摘蕾期の茎葉に散布することにより、花首の伸長を抑制する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 貯蔵中に分離することがあるので、使用直前に容器をよく振る。
- 節間伸長や葉柄徒長の程度は品種や栽培条件により異なるため、必要に応じて使用する。

〈水稻〉

●使用時期

穂の出穂10日から2日前の間に散布する（走り穂が見えたら散布適期である）。早い時期の処理では効果が不十分となったり、収量に影響が出たりする場合がある。遅すぎると抑制する部分がなくなるため、効果不十分となる。指導機関や農協などが発表する出穂予測を参考にして必ず適期に散布する。

●使用量

10 a 当り通常散布、少量散布では薬量75～100 ml、無人ヘリコプターでは100 mlを使用する。稲の生育状況により薬量範囲内で調整する。過量散布は稲の生育に悪影響を及ぼすおそれがあるので、適正薬量を厳守する。

●散布水量

所定の薬液量を10 a 当り、通常散布50～150 l、少量散布25～50 l 及び無人ヘリコプター散布では0.8 l の水に希釈して使用する。希釈液は攪拌する。

●散布方法

所定の散布水量で、稲の茎葉部になるべく均一にかかるように散布する。倒伏が予測される水田に、全面散布又は部分（スポット）散布する。多量散布や重複散布になった場合、生育を抑制し過ぎることがある。

少量散布の場合は、少量散布用ノズルを用いて、葉面に均一に散布する。散布する場合は、ノズルの散布中、散布距離に注意し、ノズルを上下左右に振らないで、一定の角度に固定して葉面に均一に散布する。

無人ヘリコプターで散布する場合は、地域の指導機関の指導を受けてから使用する。

〈いちご・キャベツ・ストック・きく〉

- 希釈倍数、使用液量、使用時期は厳守する。

●散布方法は、所定の散布水量で茎葉部に均一にかかるように散布する。また、多量散布や重複散布は、作物の品質に影響する場合があるのでさける。

【薬効・薬害等の注意】……………

●新品種または新しい栽培体系で使用する場合は予備試験等を行い、安全を確かめてから使用する。
●伸長を過度に抑制させないために、使用量、使用時期を厳守する。

〈水稻〉

●多量散布や重複散布にならないように注意する。
●少量散布の場合は、少量散布用ノズルを用いて葉面に均一に散布する。
●無人ヘリコプター散布の際は共通注意事項の2. 空中散布及び無人ヘリコプター散布に関する注意事項を参照。

〈いちご（促成栽培）〉

●生育後期の伸長抑制で使用する場合、目的とす

る抑制の程度に応じて散布回数を調節する。2～3回散布する時には、1カ月程度間隔をあける。

●暗黒処理時の徒長防止で使用する場合、散布後の気象条件によっては散布液量が多いと収量へ影響することがあるので注意する。

〈きく〉

●白色系及び黄色系品種で使用する。黄色系を除く有色系品種では、花色に影響することがあるので使用しない。

〈ストック〉

●花芽分化の時期（10月頃）の高温により開花異常が引き起こされるおそれのある品種（アイアンチェリー等）では、開花異常が助長されるおそれがあるので使用をさける。

●適用作物（水稻）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

【適用と使用法】……………

作物名	使用目的	使用時期	10 a 当り使用量		使用方法	本剤及びプロヘキサジオンカルシウム塩を含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈液量		
水 稻	節間短縮による倒伏軽減	出穂10～2日前	75～100 ml	通常散布 50～150 l 少量散布 25～50 l	茎葉散布	1 回
			100 ml	800 ml	無人ヘリコプターによる散布	

作物名	使用目的	使用時期	希釈倍数	使用液量	使用方法	本剤の使用回数	プロヘキサジオンカルシウム塩を含む農薬の総使用回数
いちご (促成栽培)	葉柄伸長抑制による苗の徒長防止	苗の低温暗黒処理7日前～当日 定植30～50日前	200～500倍 500倍	5～10 ml / 株	茎葉散布	1 回	4回以内 (本圃定植前は1回以内、本圃定植後は3回以内)
	生育後期の伸長抑制	葉柄徒長期 但し、収穫前日まで	400～600倍	10～25 ml / 株		3回以内	
キャベツ	伸長抑制による苗の徒長防止	育苗期 (子葉～本葉2葉期)	50～100倍	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊 (30 cm × 60 cm, 使用土壌約3 l) 当り50～100 ml		1 回	1 回
ストック	開花促進	葉数10～14枚時とその7～10日後	1000倍	100 l / 10 a		2 回	2回以内
き く	花首伸長抑制	摘蕾期	200～	50～100 l / 10 a		1 回	
		発蕾期及び摘蕾期	500倍			2 回	